

令和6年度 学校評価中間評価の結果を受けての後期の取組みについて

領 域	課題の改善に向けた具体的な取組
1学校経営	◇学校評価の中間評価および後期の取組みを職員会議やHPを通して校内外に周知し、全教職員の共通理解と保護者や地域の方々のご理解とご協力を得ながら、日々の教育活動に精励する。 ◇様々な教育課題に対し、学年や分掌と連携しながら迅速な情報の共有に努めるとともに、課題解決に向けて適切に組織対応し、教育改革を推進する。
2学習指導	◇基礎学力の充実と計画的な教科指導 ・総合的な探究の時間で、学び直し教材を活用し基礎学力の充実を図る。 ・本校生徒の実態を踏まえ、授業形態、内容を工夫しながら基礎学力定着を目指した授業を実施する。 ・生徒アンケートと相互参観授業を行い、生徒の要望を把握しつつ、生徒の学習改善や教員の授業力向上をはかる。
3生徒指導	◇今年度の重点指導である遅刻指導について、学年と連携した指導を継続していく。 ◇授業規律と身だしなみの重点指導（スマホ指導、頭髮・服装・ピアス指導、スカート指導）を引き続き全教員で行う。 ◇指導定着のために教員間の共通理解・共通行動を図るため、報告・連絡・相談を徹底する。 ◇登校時の立ち番において、生徒とのコミュニケーションを積極的に取り、指導の理解を深める。
4進路指導	◇3年学年団を中心に他の分掌の教員とも協力しながら、進路決定に至っていない生徒に指導を継続しておこなう。 ◇三年間を見通して各学年団と協力しながら、体験的な活動も含めた進路行事の充実に努める。 ◇1年次からの系統的な進路指導の構築を目指し、本校に相応しい進路指導について考えを深め、生徒への働きかけを模索する。 ◇今年度の進路動向を見極め来年度に向けて適切な進路活動を計画する。
5特別活動等	◇部活以外の高体連参加を伴う競技活動に対する受け入れ体制やルールづくりに向けて、現在の部活動の在り方と合わせて検討する。 ◇後期の取組として、服のチカラプロジェクトへの協力、びわこマラソンのボランティア参加等を行い、自己有用感を涵養する。 ◇部室の使用マナーについての注意喚起を行い、適切に管理する。 ◇学園祭の開催時期や場所など、安全かつよりよい取り組みにすべく来年度に向けて検討していく。 ◇生徒会予算の方針について見直しを行う。
6学校図書館	◇図書整備・雰囲気づくり ・高等養護学校併設を意識した図書資料収集と教員との連携による調べ学習の充実を図る。 ・静かな空間を求める生徒の為の環境整備に努める。 ◇読書案内や図書館便り発行 ・紙媒体による図書紹介・図書館イベントの中で生徒の得意分野等の紹介に努める。

7保健指導	◇保健室前の掲示板を活用し、心身についての情報を伝えていく。 ◇冬の感染症について、教職員と生徒へ情報発信していく。
8人権教育	◇生徒人権委員会でいじめ防止標語ポスターを作成し校内に掲示をする。生徒へのいじめ防止への意識を高める。 ◇人権映画鑑賞や人権講演会の内容を精選し、生徒の人権意識を高める。 ◇教職員への研修を実施し、人権感覚を高める。 ◇ボランティア活動を活性化する。 ◇個別の指導計画及び教育支援計画の作成を継続し、次年度および進学先・就職先へ引き継ぐ。 ◇個別の教育支援計画を有する生徒について、本人、保護者との面談や特別支援委員会を通して支援方法や課題について検討を行う。 ◇HRや授業において、一斉指導の中でできる支援を行い、教員間での情報共有に努める。
9環境教育	◇掃除の時間に個別の生徒の対応が入ることが多く、教員が掃除活動の指導に入れないことがある。教員が掃除の時間を意識して確保するように努める。 ◇ポスター等を掲示し、校内美化の啓発活動を行う。
10事務・管理	・予算の範囲内で、施設の修繕など適正な校舎管理を行う。 ・優先順位や緊急性を考慮し、適正な事務執行に努める。 ・個人情報を取り扱う事務については、細心の注意を図り、情報セキュリティ対策を徹底する。
11その他学校の取組	◇HPを適宜更新するとともに、マチコミメールによる情報の提供と共有を随時行う。 ◇中学校や地域との連携を図り、学校の魅力をPRする。 ◇派遣先の受け入れ状況に鑑みて、昨年度に引き続き、今年度も留学の機会を短期・中期・長期から選べる形で準備し、希望する生徒を派遣する。国際交流の機会を保障するという観点で、提携大学の神戸医療未来大学と連携をした授業を行う。